



JT Group

2025年度 第3四半期 決算説明会

古川博政

JT Group CFO

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。

※用語の定義については、スライド17以降に記載しております。

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。

その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

1. 喫煙に関する健康上の懸念の増大
2. たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
3. 国内外の訴訟の動向
4. たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
5. 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
6. 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・行動の変化及び需要の減少
7. 買収やビジネスの多角化に伴う影響
8. 国内外の経済状況
9. 為替変動及び原材料費の変動
10. 自然災害及び不測の事態等

2025年度 第3四半期累計実績

2025年度 第3四半期累計実績：たばこ事業の力強い成長が継続



(億円)	2025年1-9月	前年同期比
為替一定ベース		
Core revenue*	25,803	+15.3%
調整後営業利益*	8,490	+27.2%
財務報告ベース		
売上収益*	26,340	+13.2%
調整後営業利益*	8,147	+22.1%
営業利益*	7,629	+20.8%
四半期利益	5,117	+15.7%
継続事業	5,114	+16.6%
非継続事業	3	-

売上収益・調整後営業利益

- たばこ事業におけるオーガニックベースの力強いパフォーマンスに加えて、VGR*買収効果により、大幅な成長

*VGR=Vector Group Ltd.

為替影響（たばこ事業）

- 調整後営業利益における為替影響は、新興国通貨が円に対して減価した影響を主因にネガティブに発現

営業利益

- 調整項目において、VGR買収に伴う無形資産償却費の増加があるものの、調整後営業利益の増加により増益

四半期利益（継続事業）

- 法人所得税費用の増加があるものの、営業利益の増加により増益

* 売上収益/Core revenue、調整後営業利益、営業利益は、継続事業ベースの実績。前年同期実績も遡及修正（Like-for-Likeベース）

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含む。為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除

たばこ事業 数量実績：上期の好調なモメンタムが継続



(億本)	2025年 1-9月	前年同期比
総販売数量	4,386	+2.2%
Combustibles 販売数量	4,285	+1.7%
GFB販売数量	3,145	+2.4%
RRP販売数量	101	+27.0%
HTS販売数量	81	+37.8%

Combustibles

- ・ オーガニックベースの力強いパフォーマンスに加えて、VGR買収効果が成長を後押し
- ・ 多くの市場における好調なシェアモメンタムの継続
- ・ 主要市場におけるCombustibles総需要は、主に日本・英国において減少したものの、ロシア・トルコでは堅調に推移

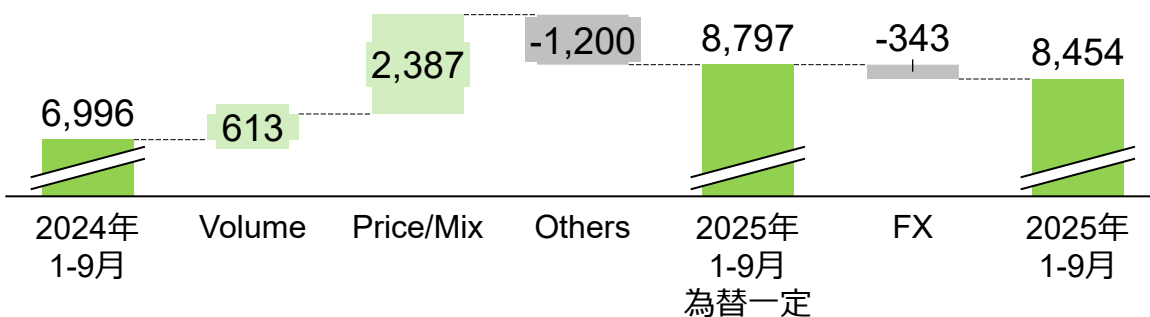
RRP

- ・ 各市場におけるPloomが牽引した継続的な数量及びシェアの伸長
 - ・ 日本におけるPloom AURAの好調なパフォーマンスを確認

たばこ事業 財務実績：力強いトップラインの伸長が牽引した二桁の利益成長

(億円)	2025年 1-9月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	24,285	+14.4%
(同 為替一定)	24,631	+16.1%
調整後営業利益	8,454	+20.8%
(同 為替一定)	8,797	+25.7%

調整後営業利益 増減要因 (億円)



Volume

- VGR買収効果を主因としたEMAクラスターの貢献により、数量効果はポジティブに発現

Price/Mix

- フィリピン・ロシア・英国を中心に多くの市場においてプライシング効果が力強く発現

Others

- Ploomへの投資強化
- インフレに伴うサプライチェーンコストの増加

FX

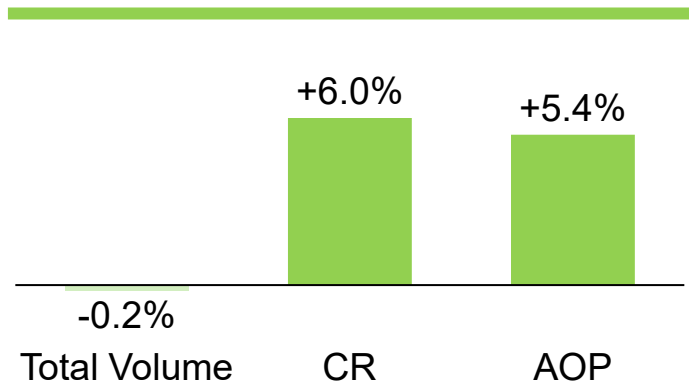
- 調整後営業利益における為替影響は、新興国通貨が円に対して減価した影響を主因にネガティブに発現

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含む。為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除

たばこ事業：クラスター別実績



ASIA



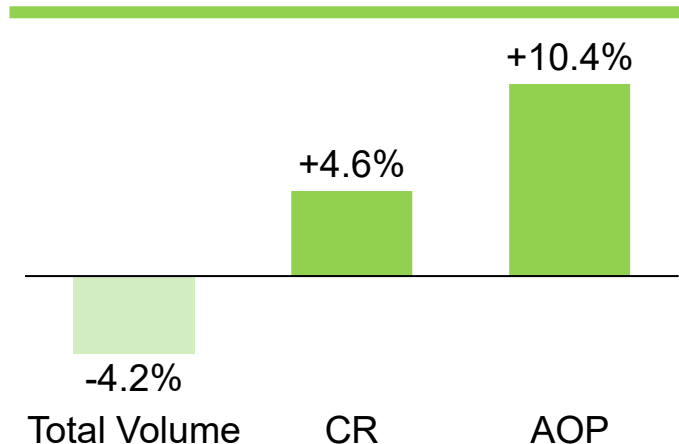
Total Volume

- 台湾等における市場シェアの伸長
- 日本におけるPloomの伸長
- 日本・台湾等におけるCombustibles総需要の減少

CR/AOP

- 日本・フィリピン等において発現したプライシング効果が、ネガティブな数量効果を相殺

WESTERN EUROPE



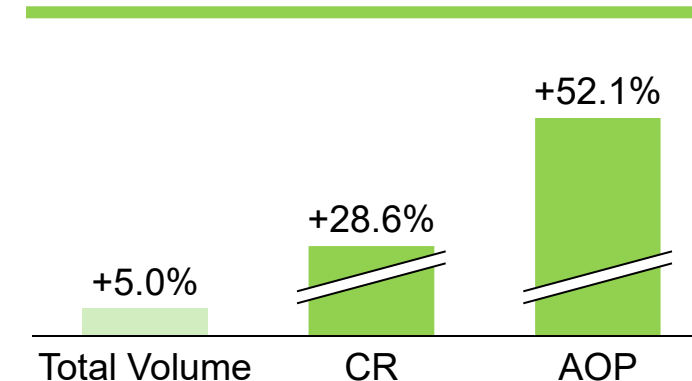
Total Volume

- イタリア・英国等における市場シェアの伸長
- 各市場におけるPloomの伸長
- 英国等におけるCombustibles総需要の減少
- イタリア・スペイン等におけるネガティブな流通在庫調整影響

CR/AOP

- イタリア・英国等において発現したプライシング効果が、ネガティブな数量効果を相殺

EMA



Total Volume

- VGR買収効果
- トルコ等における市場シェアの伸長
- ロシア・トルコにおける堅調な総需要

CR/AOP

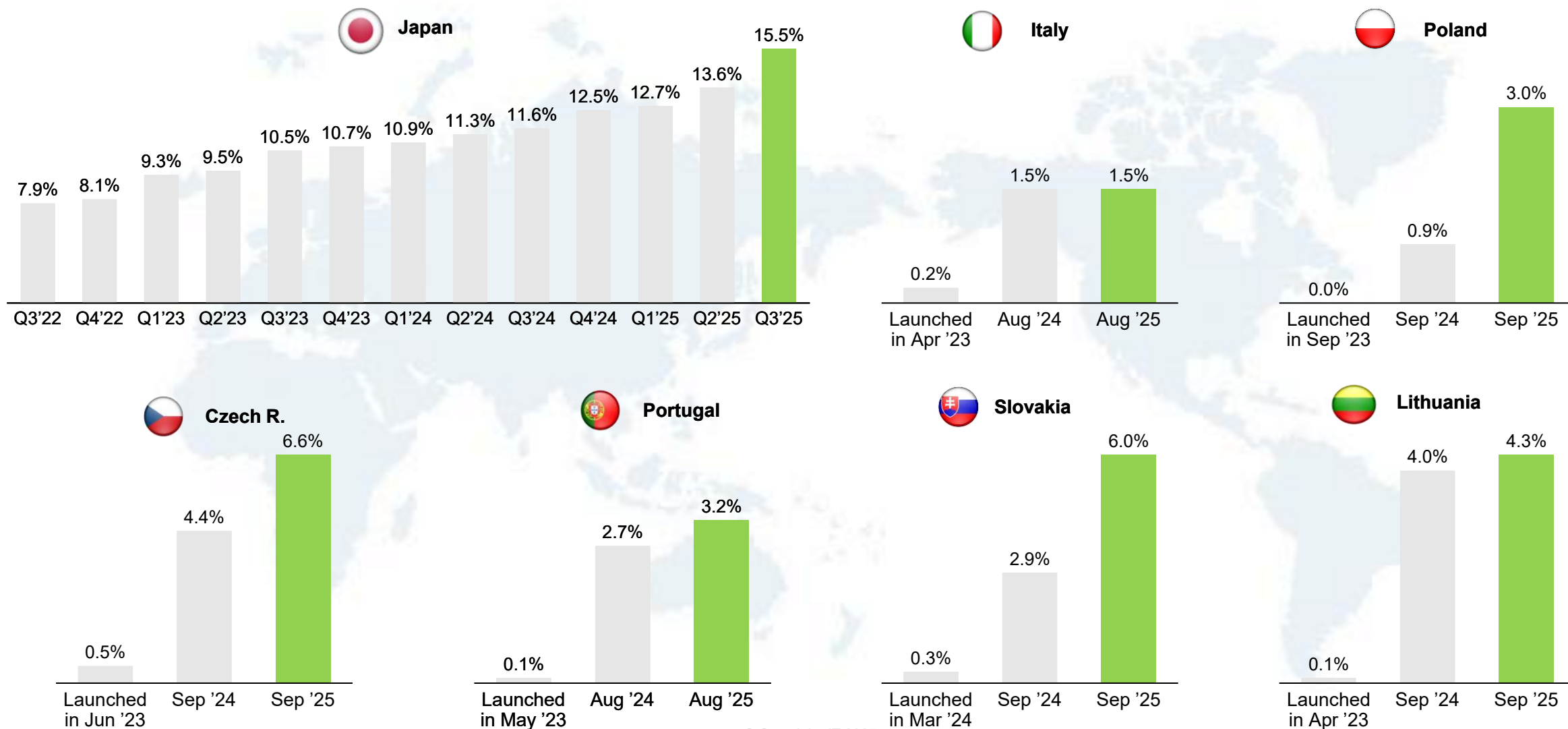
- トルコ・米国等で発現したポジティブな数量効果
- ロシア・トルコ等で発現したプライシング効果

- Ploomの投資強化 / インフレに伴うサプライチェーンコストの増加

たばこ事業 Ploom Global Overview : 着実なシェアの成長が継続



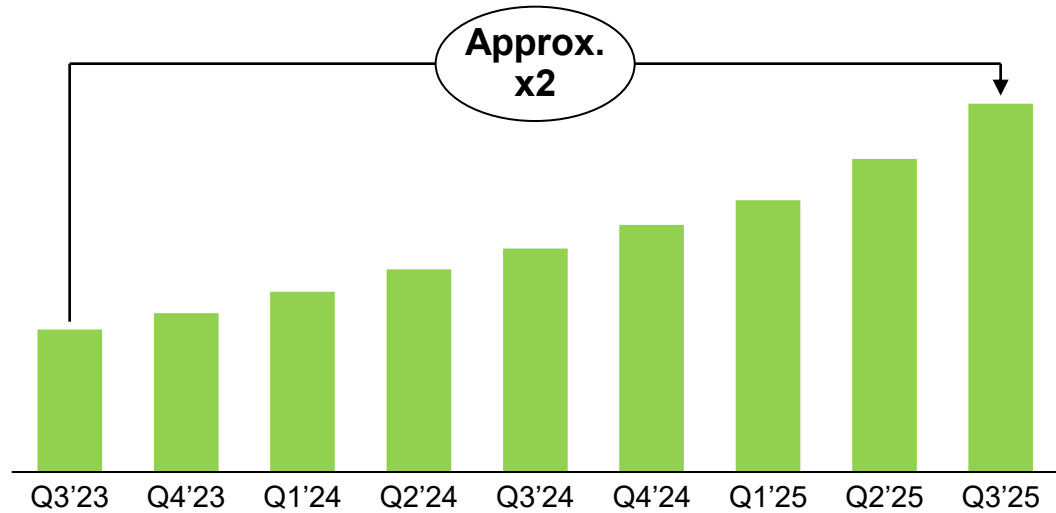
HTSカテゴリ内シェア



たばこ事業 日本：Ploom AURAの投入によりHTSカテゴリにおけるプレゼンスが向上

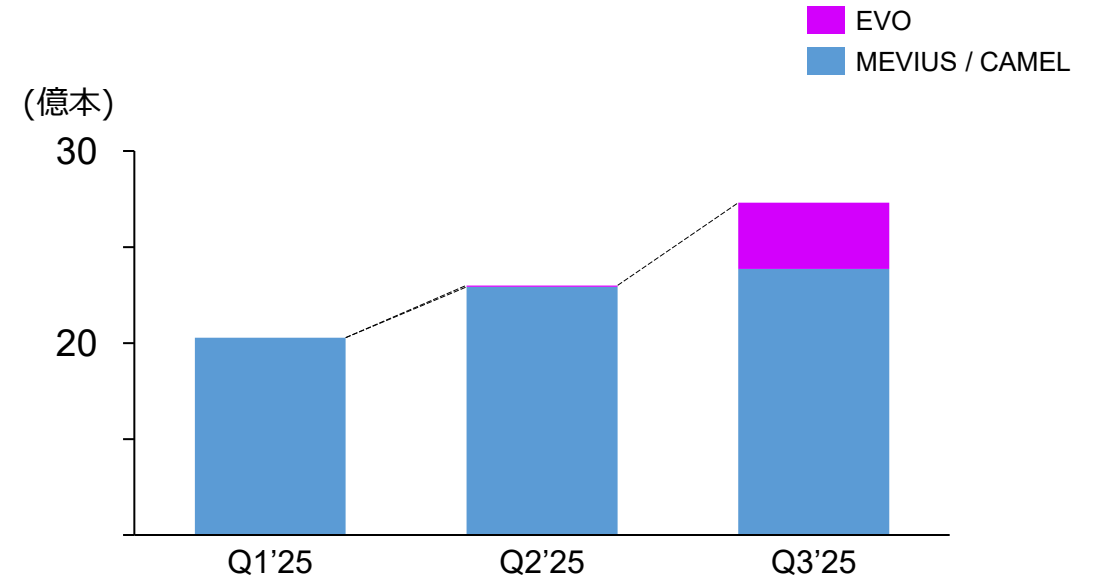


Ploom ユーザー数



Ploom ユーザー数：JT調べ

HTS ブランド別販売数量



HTS ブランド別販売数量：出荷ベース

- 日本において5月に投入したPloom AURAの好調なパフォーマンスが継続
 - Ploom AURAは従来モデル比で新規購入者の割合が高く、Ploomユーザー数の増加ペース向上に寄与
 - HTS販売数量についても着実に増加しており、既存ブランド及びEVO共に伸長
- 10月末時点のPloom AURAの投入市場は8市場。2025年末までに約15市場に拡大予定

加工食品事業

(億円)	2025年 1-9月	前年同期比 増減
売上収益	1,152	+18
調整後営業利益	55	-8

売上収益

- ・ 冷食・常温事業における価格改定を主因に増収

調整後営業利益

- ・ 売上収益の増加はあるものの、原材料費の高騰により減益

2025年度 修正見込

2025年度 全社修正見込：

たばこ事業の力強いモメンタムを反映し、ボトムラインまでの各指標を上方修正



(億円)	2025年 修正見込	対前回見込 増減	前年度比
為替一定ベース			
Core revenue*	33,260	+1,090	+13.2%
調整後営業利益*	9,230	+710	+24.3%
財務報告ベース			
売上収益*	34,560	+1,810	+13.1%
調整後営業利益*	9,030	+890	+21.6%
営業利益*	8,450	+940	+168.9%
当期利益	5,620	+680	+213.5%
継続事業	5,550	+620	+221.3%
非継続事業	70	+60	-
FCF	2,800	+440	+1,095億円

Core revenue : +1,090億円
調整後営業利益 : 為替一定 +710億円 / 財務報告 +890億円

- たばこ事業における大幅な上方修正により、上方修正
 - 調整後営業利益におけるネガティブな為替影響は、主要通貨の前提を円に対して通貨高に見直した影響等により、前回見込比で縮小

営業利益 : +940億円

- 調整後営業利益の上方修正等により、上方修正

当期利益 (継続事業) : +620億円

- 営業利益の上方修正により、上方修正

FCF : +440億円

- 調整後営業利益の上方修正により、上方修正

* 売上収益/Core revenue、調整後営業利益、営業利益は、継続事業ベース。前回見込及び前年実績も遡及修正（Like-for-Likeベース）
 注1：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含む。為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の通年の増加分について、一定の算出方法を用いて控除
 注2：カナダにおける訴訟の和解に伴い、2024年12月期決算数値において、訴訟損失引当金（3,756億円）を営業費用として計上。当該影響を除いた場合、継続事業ベースの営業利益及び当期利益はそれぞれ前年度比+22.5%、+21.5%となる見込

2025年度 たばこ事業：好調な実績を反映し通期見込を上方修正



数量前提

	2025年 修正見込	前回見込
総販売数量	前年度比 約+2.0%	前年度比 約-1.0%

財務見込

(億円)	2025年 修正見込	対前回見込 増減	前年度比
自社たばこ製品 売上収益	31,630	+1,680	+13.8%
(同 為替一定)	31,620	+1,120	+13.8%
調整後営業利益	9,500	+900	+20.0%
(同 為替一定)	9,700	+720	+22.5%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含む。為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の通年の増加分について、一定の算出方法を用いて控除

数量前提

- Combustiblesカテゴリにおける一部市場での底堅い総需要トレンドや好調なシェアモメンタムに加えて、HTSの伸長を織り込み上方修正

財務見込

- 数量前提の見直し及び力強く発現しているプライシング効果を織り込み上方修正

為替影響

- 調整後営業利益におけるネガティブな為替影響は、主要通貨の前提を円に対して通貨高に見直した影響等により、前回見込比で縮小する見込み
(前回見込：-380億円 / 今回見込：-200億円)

加工食品事業

(億円)	2025年 修正見込	対前回見込 増減	前年度比 増減
売上収益	1,620	-30	+48
調整後営業利益	85	-	+4

売上収益

- ・ 冷食・常温事業における販売実績を踏まえて精緻化し、下方修正

調整後営業利益

- ・ 売上収益の下方修正があるものの、コスト低減により前回見込から変更なし

Closing remarks

1-9月期実績

- 当第3四半期においても、たばこ事業の好調なビジネスモメンタムが継続力強いトップライン成長に牽引され、全社為替一定調整後営業利益は27.2%の成長
- 新たに投入したPloom AURAの貢献もあり、競争が激化するHTSカテゴリにおいても、プレゼンスが着実に向上

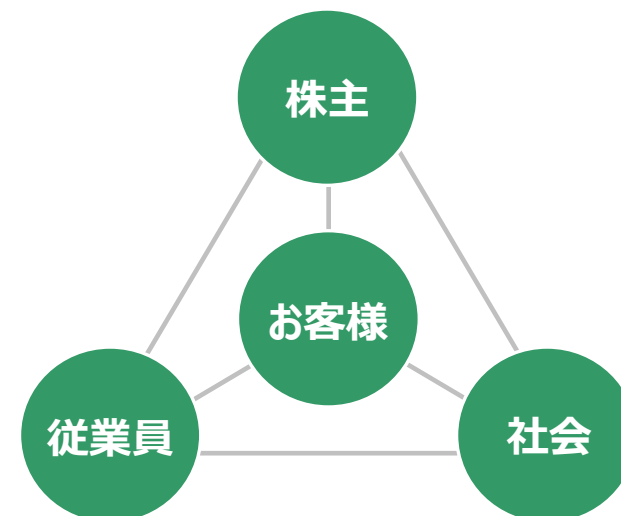
通期修正見込

- たばこ事業における足元の好調なパフォーマンスを反映したことに加えて、ネガティブな為替影響の縮小を見込むことから、各指標を上方修正し、売上収益から当期利益に至る各指標において過去最高となる見通し

株主還元

- 1株当たり年間配当金予想は、今回の通期業績予想の上方修正を受け、株主還元方針に則り、26円増配の234円（中間 104円 / 期末 130円）*
 - 当期配当の算定にあたっては継続事業ベースでの配当性向を基に決定
- *継続事業からの当期利益をベースとした配当性向：74.9%

心の豊かさを、
もっと。



<用語の定義>

調整後営業利益

営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）*
*調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等

為替一定ベース

前年同期の為替レートを用いて換算／算出することにより、為替影響を除いた指標。
ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない

為替一定ベースcore revenue
(全社)

為替一定ベースの自社たばこ製品売上収益 + 医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益

自社たばこ製品売上収益

物流事業／製造受託等を除く売上収益

四半期利益／当期利益

親会社の所有者に帰属する四半期利益／当期利益

Reduced-Risk Products
(RRP)

喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
当社製品ポートフォリオにおける加熱式たばこ／E-Vapor／無煙たばこ製品等が含まれる

Heated tobacco sticks
(HTS)

たばこスティックを直接加熱する加熱式たばこ製品。1スティック当たりRMC1本として換算

Combustibles

製造受託／RRPを除く可燃性のたばこ製品

<用語の定義>

総販売数量

製造受託／RRPデバイス及び関連アクセサリーを除くたばこ製品の販売数量

Combustibles販売数量

製造受託／RRPを除く燃焼性のたばこ製品の販売数量

RRP販売数量

RMCとして換算したRRPの販売数量。ただし、デバイス／関連アクセサリー等は含まない

HTS販売数量／Ploom販売数量

RMCとして換算したHTS（Ploom）の販売数量。ただし、デバイス／関連アクセサリー等は含まない

Global Flagship Brands
(GFB)

Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド